

## ニューヨークに住む日本の子どもたち(2)

### —「NY子どものくに幼稚園」での学び—

鍋島 恵美

さてさて、再び「魔女学校修行の始まり」です。

再びというのは、実は「魔女学校修行 春の巻」と称して九月号に春に訪れたNY子どものくに幼稚園の様子を述べています。今回の出発を前にスケジュール調整をするのにNY子どものくに幼稚園園長のH先生から、次のようなメールが届きました。

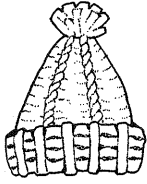
『九月は入園式、十月はハロウィーン、その前にパン

プキン狩り、楽しい子どもたちのお祭りです。十一月はサンクスギビング、食べられることに感謝する行事です。野菜月間と称し、いろんな野菜や果物を家族から持ってきていただき、食べたり遊んだりします。十二月はクリスマス会、人に何をしてあげられるか考えるときです。これを読んで期日を決めて下さい。ハロウィーンには、子どもも先生達も変装

して楽しめます。鍋島さんも何にするか考えてきてください。」

「ハロウィーン」「パンプキン狩り」「サンクスギビング」「人に何をしてあげられるか考えるときのクリスマス会」と、日本の保育にない文化のにおいのする言葉が舞い込んできました。ハロウィーンの変装「どんなふうにして楽しむんだろう……何になるか考えて……どうしようか」と、興味と不安を抱いて再び十月下旬から十二月の初旬までの予定で出発することにしました。

そこで、アメリカ文化の行事の中で生活することもとおとなの有り様と、現地校で学びだしたことものに幼稚園の卒園生の生活ぶりについて感じたことを考えたことについて次回と二回シリーズで述べようと思います。



## 魔女学校 修行 晩秋の巻

二〇〇二年十月二十日

NY JFK空港に到着

宿泊先は、車の免許のない私が生活できるに最適だった前回と同じ所になりました。同じ所へ再び訪れるのは安心感があるものです。今回の部屋は、広い通りを挟んで住宅地を眺める方角にあり、窓の外へ目をやると視界が開け木々のこんもりとした情景がとても印象的です。その木々も紅葉の時を迎えており、赤、黄、緑と色とりどりで美しいものです。日本の我が家は、市街地で家の窓を開ければ、狭い道路を挟んですぐに向かいの家の窓が目飛び込んできます。なんと住居の立地条件の違うこと！しばし目の保養の時です。

翌朝、幼稚園に出かけるのに、同じ道を歩き、同じバス停に着くと、見覚えのある女性がバスを待つ

ています。「ここで生活をしている人の日常は同じサイクルで時を刻んでいるんだ」と、当たり前のことなのに、妙に感慨深くなってしまいます。さて、何番のバスに乗るのかは、すっかり忘れていました。でも、この女性とは前回同じバスに乗りしていたので、「助かった彼女の乗るバスに乗りよう」と、彼女に注視のまなざしを向ける私です。

バスが到着、私のその視線を感じてか「Madam no」と、そのバスではないことを教えてくれます。感激です。「Thank You」と声をかけ、次に来たバスと一緒に乗り込みました。乗客一人一人に「Good Morning」と声をかけてくれるバスの運転手も同じ人です。「同じ」ということは、やすらぐものですね。街もここで生活している人も同じ日常性を送り、その中に舞い込んだ私は、飛び入り生活者なんだと思いがちながら、降りるバス停が来るのを窓を眺め注意していました。目印だったバス停の花壇

の花はサルビアに代わっていました。紅葉の木々の中、季節感を感じながら幼稚園に出かけました。

## 再会 九月新学期の始まり

新しい先生たちと子どもが入っているのに落ち着いた雰囲気があります。四月と九月とは違うのだろうか？ 三歳児クラスだったS子、W男、K子、D男たちが心も体も大きくなっています。進級とはこんなにも成長させるものなのか？ 節目というこの意味を思います。四歳児クラスだったT子、スペシャリストに特別支援を受けているW男の明るくなっているのに驚く。T子も、にこっとして彼女独特の近づき方で寄ってきます。「だれかな？」「だれかな？」「だれかな？」と、やりとりを遊びながらしているうちに思いだしていくこどもの笑顔がかわいいです。

## ハロウィーン パーティー

十月三十一日は、ハロウィーン パーティーです。それぞれのクラスでその日に身に付けるドレスを作っています。五歳児クラスになるとこどものこだわりがそのドレスやベルトの飾りの工夫に表れてきます。当日は、五歳児主催のお化け屋敷があり、どうしておどかすのかK先生と知恵を出し合っています。保育室の入り口には、おおきいカボチャに目・鼻・口をくり抜き中にろうそくを立てた「ジャックオーランタン」が飾られます。保育者は、みんな当日までの生活をどう組み立てていくか忙しく打ち合わせをしています。先生達は、自分が何に変装するのか、「自分のことは準備できてない」と嘆いているのに……ところが、三十一日の朝、車から降りたのは、ライオン、カウボーイ、魔女、海賊、ロックンローラー、ジャック&ベティ、自由の女神、白雪姫とお姫様、トトロに観音様、と変装した先生やア



▲わたしはお姫様

シスタント。私と同年代のF先生はハイジに、秘書のYさんはハリーポッターのハリーに、H先生は、千と千尋の神隠しと、それはそれは目を見張るばかりの変装ぶりです。衣装だけでなく、ヘアースタイルからメイクまでの手の入れように、びっくりです。この日は、こどももおとなも変装してその気分で過ごすのです。お母さん達も思い思いの格好に身を包んできます。抱っこしている赤ちゃんまでもです。みんな忙しい中で、今年のハロウィーンは何に変装するか考え自分で衣装を作ったり買ってそろえたりと準備をするそうで、そのことが、楽しみであり習慣になっているようです。そこまで変装できるみんなに正直驚き感嘆してしまいました。H先生の「何になるか考えてください」のメールの意味が理解できました。

街の中も、それぞれの家庭の玄関にはジャックオーランタンを置き、庭やテラスに、お化けや吸血鬼



▲先生はかかしだよ !!

や棺などの怖いものを演出してデコレーションしてあります。十月三十一日の当日の夜は、子ども達は、扉をノックして「Trick or Treat」と声をかけ、その家の人からお菓子をもらって歩くのです。玄関先がハロウィーンに演出してある家庭ならどこの扉をノックしてもいいようです。真つ暗闇の中、変装したこどもが、ジャックオーランタンに灯された明かりを頼りにうろうろする。現実の生活の場が、その夜は一変して虚構の世界になってしまうのです。ある家庭の庭は、吸血鬼・骸骨・棺・墓石とぞつとする物と効果音で演出されています。虚構の世界と現実とが融合しゾクゾクワクワクしてきます。

アメリカ文化のなかに日本人がすっぽり入り込み楽しむ。初めて接したときのおとなの感覚はどうだったんだろうかな？ こどもはどんな気持ちで「Trick or Treat」を、三十一日に家を訪ねている

のかな？ あまりに先生たちの前日の平静さからの変装ぶり（非日常性）にびっくり！ 私が楽しませてもらいました。この地で生活しているみなさんと日本に住む私との感覚の違いが如実に表れ、不思議さの残る一日でした。

### サンクスギビング パーティー

ハロウィーンが済む頃には、落ち葉の季節になってきます。木の実も街路に落ちていきます。拾おうとすると、きれいなままの実がないのです。街の中でもすぐ近くに森があり、電線をリスが走るここNY市郊外ウエストチェスターです。リスが食べているのです。木の実はそのまま落ちて拾えると思っていた私には驚きでした。休日の朝、ブーンブーンと大きな機械音がします。窓から眺めると、その音は、街路に落ちた木の葉を掃除機のような機械を背に、吹き飛ばして一カ所に集める仕事人の出すものでし

た。集めた木の葉の山をトラックで回収していくのです。大量の木の葉は、ほうきで掃くなんてできないようです。それでも、木の葉が舞い落ちる前に街路樹を剪定してしまうどこかの国よりずっと自然の様な気がします。

十一月二十七日のサンクスギビングが近づくと、ターキーの丸焼きの宣伝が新聞やテレビに登場してきます。紅葉した木の葉や収穫物で今度は玄関先がデコレーションされます。幼稚園にも家庭から野菜や果物が届きます。それをみんなで味わって収穫を喜び合います。当日は、ターキーが主菜で家庭独特の焼き方で料理し、家族が集まり食べることに感謝するのです。私は、Yさんの招待を受け朝からターキーを焼く手伝いをしながら一日その気分を味わわせてもらいました。

忙しい日常の中にあつても、行事ごとに簡単に演出しホームパーティーをその日は楽しんでいきます。

生活にメリハリがあるように感じます。デコレーションもどれ一つ同じ物がありません。家それぞれ主張があるように見えます。日本にも季節ごとの行事がありますが、どれだけ日本の伝統を大事にしているのでしょうか？ 改めて考えさせられました。

(京都教育大学附属幼稚園)